



梁 ジョンウ 准教授

専門分野：経営学、会計学、内部監査、内部統制、コーポレートガバナンス

科目：
会計学Ⅰ、
ビジネス法務戦略、
財務会計論Ⅰ

3 Tips:

1. 難しい内容を単純化し学生が理解しやすいように工夫する
2. BreakoutRoom+Jamboard を活用しグループワークを見える化する
3. 学生を動機づけるクラスの雰囲気づくり

Q: 授業構成ややり方などに工夫している部分はありますか？

A: 私は各科目の目標を達成することが授業の質を高めることに繋がっていると思っています。なので授業目標を達成するためにどんな戦略が必要かをまず考えます。例えば、私が担当している会計学Ⅰの場合、目標は会計と企業活動の関連性、仕訳から財務諸表作成までのプロセスを理解することです。初めて接する勘定科目の名称などを難しく感じる学生が多い中で、これらを学生が理解しやすくするために、概念を単純化し反復練習できるように授業内容を構成し

方法を工夫しています。まずはクラスの雰囲気づくりから始まります。私は、学びは楽しいことだと直接・間接的に伝えるようにしています。また、授業中に励ましの言葉をよく言います。学生には発表の度にクラス全員の拍手と感謝の言葉が与えられます。グループワークの際には、互いが尊重し合えるグラウンドルールを提示しています。次に、科目毎のモチベーション方法についてです。例えば、財務会計論では、ただ授業でいい成績を取ることにどのような成長ができるか、個々人の目標を決めてもらい、その進捗状況を中間・期末テス

ました。財務諸表は箱の集合体だと説明し、各勘定科目がどの箱（資産や負債など）に入るかを学生に質問します。そして勘定科目が増える度に、繰り返し同じような訓練を重ねることで会計の概念が定着するように工夫しました。

Q: 先生の授業で、学生の学びのモチベーションを高めるために工夫されていることはありますか？

A: 動機付けされるきっかけは人それぞれだと思います。同じ方法でもある人には、全く効果がない場合があるので、いろん

な方法を工夫しています。まずはクラスの雰囲気づくりから始まります。私は、学びは楽しいことだと直接・間接的に伝えるようにしています。また、授業中に励ましの言葉をよく言います。学生には発表の度にクラス全員の拍手と感謝の言葉が与えられます。グループワークの際には、互いが尊重し合えるグラウンドルールを提示しています。次に、科目毎のモチベーション方法についてです。例えば、財務会計論では、ただ授業でいい成績を取ることにどのような成長ができるか、個々人の目標を決めてもらい、その進捗状況を中間・期末テストの時点で自己評価するようにして、学生が自分の成長を意識するように工夫しました。また、複数の課題を必須課題と任意課題に分けています。必須課題は全員が必ずやる必要がありますが、任意課題は選択可能で、モチベーションのある学生に+αの学びの機会を提供しています。例えば、今回のビジネスエシックスの授業では、必須の期末レポートに加え、授業中紹介した理論に関連する図書を1冊読み、論点と自分の考えをまとめるような任意レポートが出されています。

その他、授業時に教科書の一部を読んでも

らう「APU アナウンサー」や Respon/Manaba Quiz などの機会を設けて、学生が努力すればするほど多くのボーナスポイントが取れるような仕組みを作っています。これらの工夫を通じて学生全員が授業に能動的に参加するアクティブラーニングを目指しています。

Q: オンライン授業で変わった部分とかありますか？

A: 質の高い授業を作り上げるためには学生と教員の双方のやり取りが重要だと思いますが、オンライン授業では学生がカメラ

をオフにして発言しない場合が多いので、どうしても一方的な授業になりがちです。特に、学生がどこまで理解していて、どこが分からないのかが把握できないので、授業中はバーチャルの手を挙げるかカメラの前で手を振るようにさせて、学生からのフィードバックを頻繁にもらうようにしています。

グループワークに関しては、学生がブレイクアウトルームに行っている間は、グループワークの状況を把握しづらい面もありますが、私がブレイクアウトルームを巡回したら学生はこちらを意識してしまい、スムーズな議論ができないこともあります。そこで、実際に学生がどのようにグループワークをしているかを網羅的に確認したいと思い、ブレイクアウトルーム機能とともに「Jamboard」を活用しています。Jamboard は FD セッションでCutting先生よりご紹介頂いたものです（この場を借りて感謝申し上げます）。各グループから 2 人ずつ Jamboard に入ってもらい書記を担当させます（2 名 x20 グループ=40 人程度が同時アクセス）。各ブレイクアウトルームでは書記が Jamboard の画面を共有することでグループメンバー全員が議論しながら

書き込みの内容も確認できるような仕組みとなっています。私はメインルームからワーク中の Jamboard をリアルタイムで確認できるので、オンライン授業上の課題の一つが改善できたと思います。

Q: 授業内容の改善する際、どのようなステップがありますか？

A: 授業内容の改善は毎 Semester 終了後に検討しています。授業期間中は、気づいたことや改善すべき内容をメモに残しておきます。後に、学生からの授業評価アンケートも参考にしながら、全体的に振り返り、

★前回の復習

【財務諸表(F/S)のフォーマット】 ★箱を作ろう! ★

①貸借対照表(B/S)

	負債
資産	純資産

②損益計算書(P/L)

費用	収益
----	----

学生が理解しやすいように工夫する：「概念を単純化し反復練習できるように授業内容を構成し...」

★前回の復習

【Q】以下のものは、どの箱に入るのか？

	左(借方)	右(貸方)	
B/S	資産	負債 純資産	①現金? ⇒資産 ②普通預金? ⇒資産 ③商品? ⇒資産 ④売上? ⇒収益 ⑤送料? ⇒費用 ⑥仕入? ⇒費用 ⑦雑損? ⇒費用 ⑧買掛金? ⇒負債 ⑨売掛金? ⇒資産 ⑩資本金? ⇒純資産
P/L	費用	収益	

授業資料などをアップデートしています。また、同じ科目を担当する他の先生とのマテリアル共有、講義内容やテストなどに関する意見交換も必要に応じて行っています。

Q: 他の先生にシェアしたいスキルなどありますか？

A: 私のティーチングメソッドは伝統的なもので特別なテクニックはございませんが、学生を愛することや与えられた環境に感謝することを忘れないように心がけています。ここ数年で、私の想いが学生にその

まま伝わっていることに気づきました。様々な学生との話の中で、教員の考え・心の持ち方などが、学生に大きな影響を及ぼしていることが分かりました。教員が動機づけられハッピーになることで、学生も動機づけられハッピーになるのではないかと思います。

この場を借りて、色々とお変な状況の中でご尽力される先生方・教職員の皆様に感謝を申し上げますとともに、先生方を信頼し最善を尽くしている学生の皆さんに、熱いエールを送ります！

「...財務諸表は箱の集合体だと説明し、各勘定科目がどの箱(資産や負債など)に入るかを学生に質問します。」

インタビューの感想

先生の授業を受講したことがあります。授業を進行するにあたり学生に質問を投げて楽しい授業の雰囲気維持のためにどのような努力をされたか分かるようになってとても良かったです。学生のモチベーション程度に合わせて+αの課題を設定している部分を個人的には非常に印象的な部分でした。

The screenshot shows a Jamboard interface with the following content:

- Header:** BizEthics #6 Shell BrentSpar
- Navigation:** Back, Forward, Search, Background settings, Remove frames.
- Left Panel:** Tools for drawing, erasing, and zooming.
- Main Content:**
 - 【事実把握】**
 - Shell社の意思決定の過程に問題があったか。
 - 今まで学んだ「規範的倫理」の側面から見ると、Shell社とグリーンピースは、どのような立場であるか。
 - 【発表内容】**
 - A. あなたは同社の経営陣である。費用と便益を分析した。
 - ①原案通りに海で処理(海洋投棄): コスト1億円
 - ②環境団体の言う通りに処理: コスト14億円
 - なお、本件は、人命には関係なし。
 - 自社分析の結果、該案件に関わる海洋汚染はごく部分的。
 - あなたは、①・②どちらの計画を実施するか？
 - その理由は？(ビジネスの観点と、エシックスの観点で説明)
- Sticky Notes:**
 - Yellow: 意思決定の過程に問題はない
 - Yellow: Shell社は意思決定のステップを踏んでいるにも関わらず、グリーンピースは反対しか押し切っておらず、妥協案などを出せばよかつたのではないかと? (0と1しかない)
 - Blue: エシックスの観点: 廃材に環境破壊というリスクはあるものの、かなり低い。他の人々や専門家からの許可も、必要な意思決定により採択されている。また、新設などで期間を行うほど説明責任も果たしている点も良い。
 - Blue: 費用削減が第一の場合、更に妥協を払わない可能性はある。
 - Blue: できれば海で処理をする上で、グリーンピース側も納得できる妥協案を探す
- Right Panel:** TEAM 7, 本日の参加者名 (全員・苗字のみ), 未日のファシリテーター、書記の名前 (苗字のみ)

Tip #2: BreakoutRoom+Jamboard を活用しグループワークを見える化する (<https://jamboard.google.com>)

「Q」とは

APU で素晴らしい授業を行っている先生方はたくさんいらっしゃいますが、先生方が授業中にどのような工夫をしているのか知ることが出来れば、他の先生の授業改善にも役立つ。そのために、インタビューをして授業の工夫を教えてもらいたい、ということで始めた取り組みです。この記事は、授業の「Quality=質」を高める、質を高めるための「Question=問」に答える、授業改善の「Queue=列」をなす、など、色々な意味を込めて「Q」と名付けました。先生方の授業の質向上の「Quest」に役立てられると幸いです。

